

研究計画書

教科領域：国語

兵頭 宣彦、細川 美保、丸山 佑樹
研究パートナー 小助川 元太、清田 朗裕

1 教科領域研究テーマ

言葉による深い学びを通して「エージェンシー」を育む学習指導と評価の工夫

2 研究テーマ設定の理由

「エージェンシー」とは、変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任を持って行動する能力だと定義されている。今後、よりよい未来社会を築いていく上で必要となる「エージェンシー」を国語科の授業の中でも高めていくことができるよう、教師が学習指導や評価の在り方を工夫していくことが大切であると考え。

昨年度は、「単元を構想する場面」「授業を行う場面」「振り返りを行う場面」において、生徒の学びや課題、意思決定について生徒と教師、生徒と生徒が共有したり、生徒自身が自覚したりすることができるよう工夫した学習活動を展開してきた。成果としては、生徒と教師、生徒同士の対話を通して、生徒自身が単元や授業の見通しを持って、主体性を発揮しながら日々の学習に取り組むことができるようになった。また、課題としては、授業での振り返りを効果的に活用できなかったことが挙げられる。

生徒には、授業での振り返りを通して、自分の成長や変容を自覚するとともに、次の授業・単元での学びにつなげさせたい。教師は、授業での振り返りを生徒にフィードバックするとともに、次の授業や単元の構想につなげたり、学びの見取りにつなげたりしたい。したがって、今年度はこれまでの研究を継続するとともに、生徒の振り返りを生徒自身と教師が次の授業・単元に活かせるようにしたいと考え、本研究テーマを設定した。

3 具体的な研究内容・方法

(1) 「エージェンシー」を発揮できる場面の設定

「目標設定→計画→学習→振り返り」という学習過程の中で、生徒と共に意思決定をしたり、改善したりすることができるよう教師が意図的に単元を構想し、授業を進めていく必要がある。生徒と共に学び、考え、工夫・改善につなげる場면을計画的に設定する。

(2) 「エージェンシー」を育む振り返りの工夫

生徒自身と教師が、振り返りを次の授業・単元に活かすことができるよう、OPPAやデジタルポートフォリオを有効に活用する。

(3) 「エージェンシー」を支える言語技術の育成

中学校1～3年生にとって、どのような言語技術が必要で、系統的に身に付けていくためにはどうすれば良いかをまとめ、朝の「言語技術の時間」と連動させて、計画的に指導する。

4 校内授業計画

○5月示範授業：「空中ブランコ乗りのキキ」（1年、5月、兵頭 宣彦）

○7月 ICT 授業：題材未定（学年未定、丸山 佑樹）

○10月新任研修：題材未定（学年未定、細川 美保）

○2月研究授業：題材未定（学年未定、兵頭 宣彦）